

〈授業改善推進プラン 令和4年度第2学年 国語科〉

<p>1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和4年5月実施の学力調査の正答率について、基礎問題では89.3パーセント、活用問題では62.5パーセントだった。したがって、学習した事項を活用する能力に課題があると考えられる。 令和4年5月実施の学力調査の正答率について、第1学年の配当漢字の問題が70パーセント、相手に伝わるように、事柄の順序を考えて話したり、経験したことに基づいて話したりする問題が50パーセントと、目標値を大幅に下回った。漢字の確実な定着と、相手に伝わるような話し方に課題が見られる。 			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和2年度未就学のためなし。 <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> 漢字の学習では、アニメーションで筆順が分かるアプリケーションを用いる。アニメーションを見ながら空書きをすることで、筆順の定着を図る。 伝える相手を意識した作文指導を行う。「誰に」「どのような目的で」書くのかを最初に確認し、相手意識をもって伝えることができる力を育むことをねらう。 			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; border-right: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p><方策></p> <p>①毎日の宿題で、丁寧に漢字学習に取り組ませる。</p> <p>②日々の作文指導や発表活動。</p> </td> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> <p><検証方法></p> <p>①日々行う漢字テストやワークテストでの達成率。</p> <p>②制作した作文や発表などの取組みでの評価。</p> </td> </tr> </table>		<p><方策></p> <p>①毎日の宿題で、丁寧に漢字学習に取り組ませる。</p> <p>②日々の作文指導や発表活動。</p>	<p><検証方法></p> <p>①日々行う漢字テストやワークテストでの達成率。</p> <p>②制作した作文や発表などの取組みでの評価。</p>
<p><方策></p> <p>①毎日の宿題で、丁寧に漢字学習に取り組ませる。</p> <p>②日々の作文指導や発表活動。</p>	<p><検証方法></p> <p>①日々行う漢字テストやワークテストでの達成率。</p> <p>②制作した作文や発表などの取組みでの評価。</p>		
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> 日々の漢字テストやワークテストでは、全児童の正答率が8割を超えている。個別に課題はあるものの、ある程度の成果が出ている。 理由を述べる際に、「なぜかというところ…だからです。」という話型を全児童が使えるようになった。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 作文の際には、依然として教師側からの支援が必要で、独力で正しい日本語を使い文章を書けるようになることが課題である。 	<p>5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 作文や発表の際に、正しい日本語を使用できるような指導の徹底。 漢字を丁寧に書いて練習することの指導の徹底。 		
<p>6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> 正しい日本語を使用して、文章を書いたり話したりする姿。 			

〈授業改善推進プラン 令和4年度第2学年 算数科〉

<p>1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和4年5月実施の学力調査の正答率について、時計の問題が60パーセント、グラフの問題が70パーセントと、目標値をやや下回った。第2学年での算数の学習においてもつながってくる内容であるため、確実に定着させることが必要となる。 			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和2年度未就学のためなし。 <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> タブレットで時計アプリを使用し、具体物を操作させることで、実感を伴いながら、時間や時刻への理解を深めさせる。 数えたものに印を付けるなどして、重複や数え落としなどがいないかを確認させることで、確実にグラフや表に表すことができるようにする。 			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top; border-right: 1px dashed black;"> <p><方策></p> <p>①日々の中で、時刻や時間を意識した声掛けをする。</p> <p>②他教科におけるグラフを使用した指導。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><検証方法></p> <p>①日々の中での受け答えや、年1回実施される学力調査の結果。</p> <p>②グラフ制作の取組みや、年1回実施される学力調査の結果。</p> </td> </tr> </table>		<p><方策></p> <p>①日々の中で、時刻や時間を意識した声掛けをする。</p> <p>②他教科におけるグラフを使用した指導。</p>	<p><検証方法></p> <p>①日々の中での受け答えや、年1回実施される学力調査の結果。</p> <p>②グラフ制作の取組みや、年1回実施される学力調査の結果。</p>
<p><方策></p> <p>①日々の中で、時刻や時間を意識した声掛けをする。</p> <p>②他教科におけるグラフを使用した指導。</p>	<p><検証方法></p> <p>①日々の中での受け答えや、年1回実施される学力調査の結果。</p> <p>②グラフ制作の取組みや、年1回実施される学力調査の結果。</p>		
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> 日々の中で時計を意識した声掛けをすることで、時間や時刻への理解を深めることができた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 算数以外でグラフを使用する授業がほとんどなかったため、グラフへの理解度はあまり伸びなかった。 	<p>5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会科等の算数以外の教科でグラフや表を積極的に取り上げ、グラフや表への理解度を深める。 		
<p>6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> 他教科等でも算数で学んだ力を関連させて活用できる姿。 			

〈授業改善推進プラン 令和4年度第2学年 生活科〉

<p>1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生き物の観察において、観察したことを記録することに抵抗感をもつ児童が多い。観察した事柄を自分の言葉で記録する力を養うことにおいて、改善が図られるとよいと考えられる。 			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度未就学のためなし。 <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「大きさ」「形」「におい」「触り心地」など、具体的観察の視点から児童に問いかけ、児童が問いかけに答えた言葉をそのまま観察カードに書くよう声掛けをすることで、観察した事柄を自分の言葉で書けるようにする。 ・写真や動画を撮影することで、その場で書けなくても、後から児童が自分のペースで考えながら書くことができるようにする。 			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><方策></p> <p>①観察カード作成時における、指導の改善。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><検証方法></p> <p>①作成した観察カードの評価。</p> </td> </tr> </table>		<p><方策></p> <p>①観察カード作成時における、指導の改善。</p>	<p><検証方法></p> <p>①作成した観察カードの評価。</p>
<p><方策></p> <p>①観察カード作成時における、指導の改善。</p>	<p><検証方法></p> <p>①作成した観察カードの評価。</p>		
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的観察の視点を与えることで、徐々に自分の言葉で記録をすることができるようになった。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・事実と感想を分けて書くことができるようになる必要がある。 	<p>5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事実と感想を分けて書くことができるように指導をする。 		
<p>6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事実と感想を分けて記録をすることができる姿。 			

〈授業改善推進プラン 令和4年度第2学年 音楽科〉

<p>1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和4年度1学期授業評価アンケートでは、「音楽科の授業は分かりやすいか」という項目に関して、5名中5名が「はい」と答えている。一方、「音楽科で質問すると、分かりやすく答えてくれるか」という項目に関して、5名中4名が「はい」、1名が「いいえ」と答えている。以上の調査や授業観察の結果から、児童の疑問点をしっかりとすくい上げて理解を深めることについて、改善が図られるとよいと考えられる。 			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和2年度未就学のためなし。 <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> 鍵盤ハーモニカ学習において個別指導を行うことで、運指が苦手な児童にも鍵盤ハーモニカでの演奏を定着させることができるようにする。 歌唱の様子を動画で撮影することで、児童が客観的に自身の歌唱の課題を捉えられるようにする。 			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; border-right: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p><方策></p> <p>①個別指導での、児童の疑問点の解消。</p> </td> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> <p><検証方法></p> <p>①年2回実施される授業評価アンケートの実施内容分析</p> </td> </tr> </table>		<p><方策></p> <p>①個別指導での、児童の疑問点の解消。</p>	<p><検証方法></p> <p>①年2回実施される授業評価アンケートの実施内容分析</p>
<p><方策></p> <p>①個別指導での、児童の疑問点の解消。</p>	<p><検証方法></p> <p>①年2回実施される授業評価アンケートの実施内容分析</p>		
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> 2月実施のアンケートでは、「音楽科で質問すると、分かりやすく答えてくれるか」という項目に関して、5名中5名が「はい」と答えていた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 鍵盤ハーモニカの運指でつまずいてしまうときがある。 	<p>5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> リコーダーの学習の際にも同様のつまずきが起こることが予想されるので、ゆっくりと演奏するなど丁寧に指導をする必要がある。 		
<p>6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> 様々な楽器に親しみ、楽しんで演奏に取り組む姿。 			

〈授業改善推進プラン 令和4年度第2学年 図画工作科〉

<p>1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和4年度1学期授業評価アンケートでは、「図画工作科の授業は分かりやすいか」という項目に関して、5名中5名が「はい」と答えている。一方、「図画工作科で質問すると、分かりやすく答えてくれるか」という項目に関して、5名中4名が「はい」、1名が「いいえ」と答えている。以上の調査や授業観察の結果から、児童の疑問点をしっかりとすくい上げて理解を深めることについて、改善が図られるとよいと考えられる。 			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和2年度未就学のためなし。 <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> 表現活動においては、手や体全体を十分に働かせ材料や用具を使えるように、図工室だけでなく、廊下や中庭、校庭などの母島小中学校の環境を活かすことで、創造的につくったり表したりできるようにする。 材料を十分に用意することで、創造力を働かせてつくったり表したりできるようにする。 			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><方策></p> <p>①個別指導での、児童の疑問点の解消。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><検証方法></p> <p>①年2回実施される授業評価アンケートの実施内容分析</p> </td> </tr> </table>		<p><方策></p> <p>①個別指導での、児童の疑問点の解消。</p>	<p><検証方法></p> <p>①年2回実施される授業評価アンケートの実施内容分析</p>
<p><方策></p> <p>①個別指導での、児童の疑問点の解消。</p>	<p><検証方法></p> <p>①年2回実施される授業評価アンケートの実施内容分析</p>		
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> 2月実施のアンケートでは、「図画工作科で質問すると、分かりやすく答えてくれるか」という項目に関して、5名中5名が「はい」と答えていた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> まっすぐ切る、はみ出さずに色を塗るなど、丁寧に細かい作業をすることが苦手な児童が多い。 	<p>5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 丁寧に作業をすることで、きれいな作品を作ることができることを徹底して指導する。 		
<p>6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> 丁寧に作品制作をし、よりよい作品をつくろうとする姿。 			

〈授業改善推進プラン 令和4年度第2学年 体育科〉

<p>1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和4年度1学期授業評価アンケートでは、「体育科の授業は分かりやすいか」という項目に関して、5名中5名が「はい」と答えている。一方、「体育科で質問すると、分かりやすく答えてくれるか」という項目に関して、5名中4名が「はい」、1名が「いいえ」と答えている。以上の調査や授業観察の結果から、児童の疑問点をしっかりとすくい上げて理解を深めることについて、改善が図られるとよいと考えられる。 令和4年6月実施の新体力テストでは、50メートル走の平均得点が10点中4.4点であった。走ることについての指導において、改善を図るとよいと考えられる。 			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和2年度未就学のためなし。 <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> 競技中の動画を撮影し、それを視聴することで、児童が客観的にフォームをチェックすることができ、改善点を捉えることができるようにする。 スモールステップで課題を提示することで、運動の特性に応じた楽しさを味わいながら、練習することができるようにする。 			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; border-right: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p><方策></p> <p>①個別指導での、児童の疑問点の解消。</p> <p>②動画撮影・視聴による、フォームの改善。</p> </td> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> <p><検証方法></p> <p>①年2回実施される授業評価アンケートの実施内容分析</p> <p>②年1回実施される新体力テストでの成績や、日々の競技中の観察。</p> </td> </tr> </table>		<p><方策></p> <p>①個別指導での、児童の疑問点の解消。</p> <p>②動画撮影・視聴による、フォームの改善。</p>	<p><検証方法></p> <p>①年2回実施される授業評価アンケートの実施内容分析</p> <p>②年1回実施される新体力テストでの成績や、日々の競技中の観察。</p>
<p><方策></p> <p>①個別指導での、児童の疑問点の解消。</p> <p>②動画撮影・視聴による、フォームの改善。</p>	<p><検証方法></p> <p>①年2回実施される授業評価アンケートの実施内容分析</p> <p>②年1回実施される新体力テストでの成績や、日々の競技中の観察。</p>		
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> 走ることにに関して、フォームを意識して走ることができるようになった。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 体幹が育っておらず、姿勢を保持したり、走りながら別の動作をしたりすることなどが苦手。 	<p>5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 体幹を育てることを意識した運動を取り入れる。 		
<p>6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> 体幹が育った姿。 			